

令和6年度
教職課程
自己点検・評価報告書

北翔大学大学院
生涯学習学研究科

令和7年3月

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取組

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：教職課程教育を通して育まれるべき資質能力を示した学修成果（ラーニング・アウトカム）の具体的な提示がある。
- B：教職課程で学ぶ学生間、教職員間で周知され、共有されている。
- C：教職課程を担う教職員の資質能力を高める上での方策として、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の確立とその機能的有効性がある。
- D：教職課程のマネジメントを掌る全学的組織と学部（学科）・研究科の教職課程において連携のための有効的な方策がある。
- E：教職課程の質的向上に向けての取組を含む教員養成の状況についての情報公表している。

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

<取組観点>

基準項目 1-1-①					
教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。					
取組観点との関係性	A○	B○	C	D○	E○
<p>【現状】</p> <p>情報の公表（教職課程）として、本学ホームページにおいて公表している。</p> <p>項目は、「1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画 3. 教員の養成に係る組織及び教員の数 4. 各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目 5. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 6. 卒業者の教員免許状の取得の状況 7. 卒業者の教員への就職の状況 8. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組 9. 教職課程自己点検評価報告書」としており、本自己評価で求められている取組の観点を網羅しているものとなっている。</p> <p>【優れた取組】</p> <p>特に、「1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画」においては、研究科の教育研究上の目的「心身の健康増進を図り、人々の生涯学習を支援し、生きがいのある人生を創造する」といった社会的要請に応え、教育学、心理学などの幅広い人間科学的な素養の上に、生涯学習の振興に関わる高度な学識と指導力を身につけた専門家の育成」「地域における生涯学習を振興することのできる資質・能力を身につけた研究者・上級職業人の育成」に沿ったものとしてポリシー及び具体的な取組の方策を明示している。特に、専門科目（必修）において学生に周知している。</p> <p>【改善の方向性・課題】</p> <p>研究科の教職課程教育の目的・目標の院生への周知に関しては、その内容をホームページでも周知しているところではあるが、入学時のオリエンテーション等において本研究科で育成する教師像の特徴への理解が深まるよう履修指導を徹底する。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）／（生涯学習学研究科）</p>					

基準項目 1-1-②

育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D○	E
-----------	----	----	---	----	---

【現状】

前項①に示した「情報の公表（教職課程）」の項目である「1.～9.」については、教職センター運営委員が毎年度検討・精査を行い、研究科の確認と承諾を経て、ホームページに掲載している。一連の確認・承諾は、「学科内で教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施すること」に直結している。

また、年度ごとに行うシラバスの点検・改善時にも、他科目との関わりや教職課程教育として、目標・内容の扱いが適切であるかという視点を取り入れながら精査している。

【優れた取組】

毎年度行なわれる公表情報の精査(上記)は、教育の質向上及び社会に対する説明責任を果たす観点から確認するものである。更に、研究科教務担当教員及び研究科長による見直しと必要に応じた加筆修正を毎年行い、研究会委員会へ報告を経て最終決定する流れとなっている。こうした過程の中で研究科の関係教職員は教職課程の目的・目標を共有している。

【改善の方向性・課題】

目的・目標の共有は、学科内で年度初めに確認を行うほか、情報の公表（教職課程）更新時にも全教員による承諾を得ることにより、強固なものとなっている。これらは、教育課程教育の計画的な実施状況を研究科内で相互に確認し、改善が必要な場合にはそのための指標としている。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準項目 1-1-③

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D○	E○
-----------	----	---	---	----	----

【現状】

情報の公表（教職課程）として、本学ホームページにおいて公表している。

項目は、「1.～9.（前出のため省略）」としており、本自己評価で求められている取組の観点を網羅しているものとなっている。

「修了認定・学位授与の方針」を踏まえて示されている学修成果は、シラバス中の「授業の目的」の「到達目標」に明示している。

【優れた取組】

本研究科では、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」「中学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「高等学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）」の教育職員免許状が取得可能であるが、それぞれの学修成果は上記の通り教職課程の配置科目のシラバス「授業の目的」の「到達目標」において具体的に示している。

【改善の方向性・課題】

教職課程教育を通して育もうとする学修成果はそれぞれの専修免許状の教育課程の関係科目ごとに示してはいるものの、専修免許状ごとの教職課程教育の学修成果がより把握しやすいようその表現に工夫を試みたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

○生涯学習学研究所シラバス

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

<取組観点>

基準項目 1-2-①					
教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。					
取組観点との関係性	A	B○	C	D○	E
<p>【現状】 文部科学省の教職課程認定基準に沿った教員の配置となっており、適切である。</p> <p>【優れた取組】 本研究科の教職課程の担当教員には、教育現場での実務経験・管理職経験等を有する教員が数多く、そうした実務経験を通して培われた知識・スキル・ネットワーク等を教職課程の科目展開の場で十分に生かしている。</p> <p>【改善の方向性・課題】 研究者教員と実務家教員という意識をもつこと自体に高い重要性をもつことよりは、常に各教員間の情報交換を積極的に行い、研究科委員会等で学生の学びの様子の交流を重ねていくことに、今後も時間をかけていくべきである。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉 ○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）</p>					

基準項目 1-2-②

教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。

取組観点との関係性

A

B○

C

D○

E

【現状】

本学では、教職センターの業務に直接かかわる役割を担う教員の選定が求められており、各学科から複数名の教員が教職センター運営委員としてその業務に当たっている。

これら教職センター運営委員は、年間を通して計画的な業務推進を行っており、その役割分担についても最終的な本人の承諾を得ることを前提としながら適切な配置となるように指名し、配置している。

【優れた取組】

教職センターを運営する委員の定期的な会議が設定されている。研究科内には運営委員が複数名存在することから、それらの情報も基として教員養成を行う際の学生の学び方についての率直な情報交換がなされている。

【改善の方向性・課題】

研究科委員会において、役割にしたがって定期の業務報告を行っている。これによって、教職課程の理解と学生の学びの状況を常時共有することが可能となっている。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準項目 1-2-③

教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、デジタル教科書を用いた教育指導に対応することも可能となっている。

取組観点との関係性

A

B○

C○

D

E

【現状】

本学は、現在の教育課題及び情勢、教育施策等を適時適切にとらえており、学校の教育環境と同等の学びができるように改善した教室を複数整備している。ソフトに関しても就職後にも即座に対応できるものとしている。

【優れた取組】

最新の機器と教室環境が複数整っている。また、本研究科の母体となっている教育文化学部が所有する施設・設備を利用することができる。

【改善の方向性・課題】

研究科で展開する授業科目の中には、オンデマンド授業形式や対面形式と併用したハイブリッド授業形式で展開することも多い。こうした授業運営のノウハウの共有をより積極的に行いたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 1-2-④

教職課程の質向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の取り組みを展開している。

取組観点との関係性	A	B	C○	D	E
-----------	---	---	----	---	---

【現状】

FD（授業・カリキュラム改善、教育・学生支援体制の整備等）やSD（教職員の能力開発）の取組を展開する視点で、全学を対象とした授業評価「授業改善アンケート」を毎年度各学期に行っている。「FD/SD 研修会」も定期的実施されている。これらは、教育現場の急速な ICT 環境の変化に対応したものである。

【優れた取組】

授業担当教員（非常勤講師含む）を対象とした『授業の質の評価』を把握すべく、半期毎に『授業改善アンケート』を実施することは、受講生が回答した『授業の各種評価』を研究科内で交流し、検討することで、教員が授業改善に即座に活かすことに繋がっている。

【改善の方向性・課題】

半期ごとに実施している『授業改善アンケート』の回収率がやや低いことから、院生へのアンケート提出を繰り返し促すなど、担当教員の協力のもと回収率の向上に努めたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 1-2-⑤

教員養成の状況についての情報公表を行っている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○
-----------	----	----	---	---	----

【現状】

教育職員免許法施行規則第22条の6及び8の定めに基づき、情報公表している。1. 教員養成の目標 2. 教員養成の目標を達成するための計画 3. 教員の養成に係る組織及び教員の数 4. 各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目 5. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 6. 卒業者の教員免許状の取得の状況 7. 卒業者の教員への就職の状況 8. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組 9. 教職課程自己点検評価・報告書、としており、本自己評価で求められている取組の観点を網羅しているものとなっている。

【優れた取組】

院生への周知についても、履修オリエンテーション及び各科目の中で随時行っている。

【改善の方向性・課題】

教員養成の状況に関する情報公表の内容について、引き続き適切な更新を行っていく。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準項目 1-2-⑥

全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

取組観点との関係性	A	B	C	D○	E
-----------	---	---	---	----	---

【現状】

基準項目 1-1-①②③、1-2-④⑤で述べてきた取組については、学科・研究科による年度毎の検討・改善を基本としており、それらについてのとりまとめと公表の作業は全学組織である「教職センター」（授業評価についてのみ、FD支援オフィスが担当）が行っている。

各学科・研究科の教職課程の在り方についての改善方策を考えることは、個別に行われる事項であることから、全学組織としての役割はそれらの作業が正しい手順を踏んで行われるように働きかけをし、環境整備を行うこととしている。

【優れた取組】

前項にある項目については、基準項目に記載した長所・特色がある。

これらを研究科教員で共有し、委員会等で確認している。

【改善の方向性・課題】

全学の構造や大学の在り方に係る改善を目指す場合には、学科・研究科（場合によっては学部）を超えた全学組織の発議が必要であり、学科・研究科はその決議に従っていくこととなる。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：教職課程が履修希望者の登録を行う際の「教職への基本的理解と意欲を有すること」「当該教職課程における教育の目標に理解を示していること」を確認するような履修登録上の工夫。
- B：学生に対する教育効果を考慮するとともに、直接指導に当たる教員の教育負担を考慮しつつ、当該教職課程に即した適切な規模の履修希望学生を受け入れること（基準項目 2-1、取組観点例）。
- C：教職課程に学ぶ学生の意欲や適性を把握し、組織的にキャリア支援を行う体制。
- D：学生のニーズに応じ、教職入職に関する各種情報の提供の機会や教職入職卒業生との協力関係の構築。
- E：教員採用試験等への対応（基準項目 2-2、取組観点例）。

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

<取組観点>

基準項目 2-1-①					
当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、設定し、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。					
取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E
<p>【現状】</p> <p>本研究科のアドミッションポリシー(入学者受入方針)は以下の通りであり、本学ホームページ、大学院学生便覧等で周知している。</p> <p>(1) 生涯学習関連機関及び団体・企業等で、研究的知識や技能を身に付けた専門職として指導的な役割を目指す人。</p> <p>(2) 生涯学習における様々な場面において、実践力や企画力などをもち生涯学習活動のリーダーを目指す人。</p> <p>(3) リカレント教育の一環として、幼小中高及び特別支援学校教諭専修免許状や学校心理士等の資格取得を目指す人。</p> <p>これらの内容を踏まえた学生募集広報用パンフレット等を作成し、資料請求者への配布や本学ホームページ等での閲覧やダウンロードが可能にしている。また、これらの広報資料を使用して学内学部学生向けの入試ガイダンスを適宜実施している。社会人特別選抜枠の入試制度を利用する社会人に対しては必要に応じて相談会などを行っている。</p> <p>入学者の選考方法については、本研究科の教育課程の内容に則した試験問題（筆記試験、口述試験）により適切に選考している。</p> <p>【優れた取組】</p> <p>本研究科へは社会人入学者の割合も多い。社会人特別選抜枠の入試制度を設け、生涯学習分野に関する専門知識や取り組もうとする修士論文に関する研究計画内容の適切性を問う口述試験を実施し、適切に選考している。進学相談会などを行い、学修計画の見通しを立てることができている。</p> <p>【改善の方向性・課題】</p> <p>年度によって、専修免許課程の履修を希望する入学生数の変動が大きく、免許種によっては履修者がいないこともある。教育系学部出身の学生や専修免許の取得を希望する現職教員からの受験生増に努めたい。</p> <p>根拠となる資料・データ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学院学生便覧 ○大学ホームページ「生涯学習学研究科」 ○生涯学習学研究科案内パンフレット 					

基準項目 2-1-②

「教職課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設置している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E
-----------	----	----	---	---	---

【現状】

教職課程の履修資格は、大学院教職課程履修規程第3条に示しており、次の3点を満たす者は原則履修することを許可している。(1) 学力が優良で、出席が常である者。(2) 大学院学則第66条に規定する本大学院修士課程の修了要件を満たす見込みがある者。(3) その他教育職員免許法第5条に規定する免許状の授与が見込まれる者。また、同規程第5条には専修免許状を得ようとする者は、それぞれ同種の1種免許状を取得している者であることを記している。

【優れた取組】

本研究科では、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」「中学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「高等学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）」の教育職員免許状が取得可能であり、前述の履修資格を有するもので、所定の単位を取得した場合は、複数の専修免許の取得も可能としている。

【改善の方向性・課題】

複数の専修免許の取得を希望する院生の場合、大学院修了までに修得すべき単位数が相当数になることから、無理のない履修計画を立案するよう院生への指導を行う必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学院学生便覧

基準項目 2-1-③

「卒業認定・学位授与の方針」等を踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

取組観点との関係性

A

B○

C○

D

E

【現状】

本研究科の入学定員は6名であり、少人数による授業（講義・演習）が中心となっている。

【優れた取組】

少人数授業が大半であり、適宜ディスカッション等を取り入れた参加・対話型の授業展開が可能で、より専門性を深めることができている。

【改善の方向性・課題】

履修学生がいない場合不開講となる科目については、科目担当教員への早目の不開講連絡が行えるよう院生の履修希望の把握を早期に行うよう努めたい。

根拠となる資料・データ等）

○生涯学習学研究科案内パンフレット

○大学ホームページ「生涯学習学研究科」

基準項目 2-1-④

「履修カルテ」を活用する等、学生の適正や資質に応じた教職指導が行われている。

取組観点との関係性	A	B	C○	D○	E
-----------	---	---	----	----	---

【現状】

大学のポータルサイトから院生の履修状況の把握が可能である。また、教職課程を履修する院生数は毎年数名と少数であることから、履修院生の適性や資質に応じた教職指導を行うことが可能である。

【優れた取組】

少人数に対する指導のよさを生かし、複数の教員による教職にかかわるきめ細やかな指導を行うことができている。

【改善の方向性・課題】

毎月定例で開催している研究科委員会において、大学院生の動向に関する情報共有を行っているが、それが個々の院生に関する適切な教職指導やキャリア指導につながるよう適切な情報が提供される場としていく。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

<取組観点>

基準項目 2-2-①					
学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。					
取組観点との関係性	A	B	C	D○	E○
<p>【現状】 修士論文の指導教員（主査教員）が担当する院生個人の就職（教職）指導も行っている。</p> <p>【優れた取組】 教職課程を履修する院生の修士論文のテーマは、教育分野の内容であることが大半であり修士論文の指導教員（主査教員）は、修論指導を通じて院生の適正や意欲を十分把握できる状況にある。</p> <p>【改善の方向性・課題】 学生の状況を詳細に把握して指導を行う体制を維持していきたい。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉 ○生涯学習学研究科案内パンフレット ○大学ホームページ「生涯学習学研究科」</p>					

基準項目 2-2-②

学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

取組観点との関係性

A

B

C○

D○

E○

【現状】

修士論文の指導教員（主査教員）が担当する院生個人の就職指導も行っている。

【優れた取組】

教職課程を履修する院生の修士論文のテーマは、教育分野の内容であることが大半であり修士論文の指導教員は、修論指導を通じて院生の適正や意欲を十分把握できる状況にある。また、発表会や報告会をとおして、すべての教員が院生の研究内容を理解し、必要に応じて支援を行っている。

【改善の方向性・課題】

さらに学生の状況を詳細に把握し、組織的な指導を行う体制を維持していきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ「生涯学習学研究科」

○生涯学習学研究科案内パンフレット

基準項目 2-2-③

教職に関する各種情報を適切に提供している。

取組観点との関係性

A

B

C○

D○

E○

【現状】

大学ホームページやガイダンス等で情報提供をしている。

【優れた取り組み】

キャリア支援センター、教職センターからの情報提供に加え、本研究科には教育現場での実務経験を有し教育機関とのつながりのある専任教員が多くいることから、教職に就くための各種情報を専任教員から適宜院生に提供している。

教員採用検査の実施時期や内容が大きく変更する傾向にあるが、教職センターは動向を注視し、情報収集に努め、速やかに学生や教員との共有を図っている。また、毎年実施している現職教員研修会は、多様化する教育上の課題を理解し、より実践的な教員になるための研修を行うとともに同窓生としての交流を図っている。

【改善の方向性・課題】

面談や相談、面接練習等といった具体的かつ効果的な支援には十分な時間が保証されるべきであることから、今後も積極性をもった取組を進めていくことが求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 2-2-④

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

取組観点との関係性	A	B	C	D○	E○
-----------	---	---	---	----	----

【現状】

院生の専修免許状の取得希望の有無については、入学時点にすでに明確な場合が多く、取得希望者には個々に応じた履修指導を十分に行っている。

【優れた取組】

教員就職率を高めるため、教職センター運営委員と協力しながら採用試験対策などに参加できるようにしている。

【改善の方向性・課題】

教員採用試験等に係る指導の維持発展が不可欠である。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準項目 2-2-⑤

キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

取組観点との関係性

A

B

C

D○

E○

【現状】【優れた取組】

本研究科には教育現場での実務経験を有し教育機関とのつながりのある専任教員が多くいることから、各種情報を専任教員から適宜院生に提供し、地域の教育機関等の連携を図っている。また、社会人特別選抜入試制度により入学した社会人には、現職教員の方も多く情報共有を図っている。

【改善の方向性・課題】

本研究科の卒業生の同窓会「生涯学習学研究科OG・OB会」が4年前に設立され、同窓会員には教職に就いている者も多い。本研究科に在籍する院生とこうした卒業生との連携を深めていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○生涯学習学研究科案内パンフレット

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

〔取組観点〕 全学部・研究科共通

- A：各科目の基本を押さえつつ、学校や社会の新たな課題を踏まえた内容が適切に加えられ、「教職課程コアカリキュラム」への対応、「教科及び教職に関する科目」の各科目領域間の系統性の確保といった適切な教職課程カリキュラムとなっているか。
- B：学習指導要領の基本方針である「社会に開かれた教育課程」実現に向けて「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を意識した指導方法の転換が進められている。教科等を横断する教育課程全体の教育効果として、問題発見・課題解決能力の涵養を図ることができるよう児童生徒の能動的参加を引き出す指導となっているか。
- C：「教職実践演習」によって、教職課程の履修、教職課程外での多様な活動を通じて学生が修得した資質能力が、教職に必要な実践的な指導を可能とする資質能力として形成されたかを各大学の教職課程の目的・目標に照らして最終的に確認する。
- D：「履修カルテ」の活用によって、「教職実践演習」には各学生の学修上の仕上がり度の確認の上に立って、教職として基本的な資質能力のうち、足りない部分を補完する指導上の役割を果たす。
- E：実践的な指導力育成への配慮が求められています学校インターンシップ、学校ボランティア、教育上のフィールドの機会など、「体験」の場を積極的に提供する工夫を凝らす。
- F：「教育実習」は、大学の教職課程の担当者と実習校の関係者とが連携して実践的教育を行うための貴重な機会でもある。教育実習に臨む上での必要な履修要件のもと、「実習生」としての心構えの指導も求められる。この点、大学の教職課程が実践的指導力育成を行っていくなかで、教育委員会との交流を深め、連携を密にしていく。

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

<取組観点>

基準項目 3-1-①						
建学の精神を具現する特色ある教職課程カリキュラムを編成・実施している。						
取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
<p>【現状】【優れた取組】</p> <p>本研究科の修了要件は、所定の修業年限以上在学し、必修6科目12単位を含め、合計32単位、かつ研究指導を受け、修士論文の審査及び試験に合格することとしている。1年間に履修登録できる上限を設けるキャップ制は設けていない。</p> <p>本研究科の教育課程は、「生涯学習学理論領域の科目群（28科目56単位）」、「生涯学習活動領域の科目群（21科目42単位）」、「研究指導の科目群（4科目8単位）」で構成している。全体53科目106単位と多くの特論と演習を配置し、生涯学習に関する学校や地域からの多様なニーズに積極的に対応しうる教育課程教育を展開している。</p> <p>【改善の方向性・課題】</p> <p>キャップ制の導入や「教科及び教職に関する科目」の修了要件科目への組み入れなどについて、検討し、令和6年度から「教科及び教職に関する科目（16科目32単位）」の単位は、修了要件に含めた。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学院学生便覧 ○大学ホームページ「生涯学習学研究所」 ○生涯学習学研究所案内パンフレット 						

基準項目 3-1-②

学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】【優れた取組】

前項基準項目 3-1-①の現状で記したように、本研究の教育課程は、修了要件となる「生涯学習学理論領域の科目群」、「生涯学習活動領域の科目群」、「研究指導の科目群」の3種の科目群を配置しその中の必修6科目12単位をカリキュラムに含んでいる。教職課程カリキュラムは、これら科目群と修了要件とし系統性の確保を図り編成している。

【改善の方向性・課題】

前項基準項目 3-1-①の課題と改善策に記したように、令和6年度から「教科及び教職に関する科目」を修了要件科目への組み入れることとした。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 大学ホームページ／情報の公表（教職課程）
- 大学院学生便覧
- 大学ホームページ「生涯学習学研究科」
- 生涯学習学研究科案内パンフレット

基準項目 3-1-③

教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】

本件研究科の教育課程は生涯学習に係る理論領域と活動領域の科目群が中核をなしており、それらには生涯学習社会を実現していくうえでの今日的な課題や学校教育を含む広義の生涯学習の在り方を探る学問領域を含んでいる。教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえつつ今日的な学校教育の課題に対応する生涯学習の面からの専門的な内容の補完を行っている。

【優れた取組】

児童生徒の教育的なニーズに応えられる高度な専門性が身に付けられるように教育・研究を行っている。

【改善の方向性・課題】

令和6年度より専修免許課程のカリキュラムが修了要件に含む科目となり、能率かつ効果的に科目選択が可能となり、幅広く生涯学習社会の在り方を深めることが可能となり、今日的な教育課題について幅広く学修・研究することができるようになった。今後も社会の変化に対応する教育課程の検討が必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学院学生便覧

基準項目 3-1-④

ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、「情報通信技術を活用した教育の理論方法に関する科目」や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E	F
-----------	----	----	---	---	---	---

【現状】

院生にひとり1台のノートPCを貸与し学内WIFI環境等も整備するなど、ICT機器を活用できる教育環境とし、学校の教育環境と同等の学びができるように改善した教室を複数整備している。

本研究科の教育課程に「生涯学習メディア特論」「研究方法特論」「統計分析演習」「教育方法特論」「生涯学習活動特論」などのICT機器を活用して情報分析・情報活用能力を高める科目を配置しており、これらは教職課程の補完的な科目としても位置付けられる。

【優れた取組】

「生涯学習活動特論」では、ICT機器・情報通信等を専門とする複数の教員から、教育現場で効果的にICT機器を活用する指導を受けることができる。

【改善の方向性・課題】

教育現場でのICT機器活用に関する今日的な課題を意識した授業内容の検討も必要であろう。具体的には、学校現場に直接かかわるフィールドワークなどの実習科目についても検討したい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学院学生便覧

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）

基準項目 3-1-⑤

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

取組観点との関係性	A○	B○	C	D	E○	F
-----------	----	----	---	---	----	---

【現状】【優れた取組】

各科目の中において、受講者による課題・研究発表などのプレゼンテーション・グループワークなどの授業展開を積極的に取り入れ、対話的な学びの在り方についても議論を通して深めている。

【改善の方向性・課題】

対面とオンラインとの併用によるハイブリッド形式の授業運営を行う場合に、プレゼンテーションやグループワークが支障なく行えるよう ICT 機器の活用方法やそれら機器の整備について検討を行っていく。

〈根拠となる資料・データ等〉

○大学ホームページ「生涯学習学研究科」

○生涯学習学研究科案内パンフレット

基準項目 3-1-⑥

教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。

取組観点との関係性	A○	B○	C○	D	E○	F○
-----------	----	----	----	---	----	----

【現状】

本研究科のシラバスは、・授業のねらい・到達目標・授業計画・準備学習の内容（事前・事後の学習）・使用するテキスト（教科書）や参考書・成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）・質問への対応（連絡先など）・その他（履修に当たっての特に注意すべき事項）、加えて「学習形態（A講義、B演習、・・・Nロールプレイ）」、といった内容を専門科目といった分類で示している。

【優れた取組】

評価方法については、評価の配分を割合で示すなどし、学生の納得を得ている。また、資格へのつながり、質問への対応など、教職課程対応のシラバスとしてきめ細かいものとなっている。

【改善の方向性・課題】

院生の事前学習、事後学習に役立つものとなるよう、さらに詳細な表示を効率的に行っていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○生涯学習学研究所シラバス

基準項目 3-1-⑦

教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E	F○
-----------	---	---	---	---	---	----

【現状】【優れた取組】

本研究科では、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」「中学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「高等学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）」の教育職員免許状が取得可能であるが、それら課程の履修要件には、それぞれ同種の1種免許状を取得していることが必要であり、すでに1種免許状を取得している者が同種の専修免許状を取得しようとする場合には、教育実習は必要がない。

【改善の方向性・課題】

特になし。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 3-1-⑧

「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

取組観点との関係性	A	B○	C○	D○	E	F
<p>【現状】 設定がないことから記入しない。</p> <p>【優れた取組】</p> <p>【改善の方向性・課題】</p>						

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

<取組観点>

基準項目 3-2-①						
取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。						
取組観点との関係性	A	B○	C○	D	E	F○
<p>【現状】</p> <p>「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」「中学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「高等学校教諭専修免許状（音楽、美術）」「特別支援学校教諭専修免許状（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）」の教員免許状の特性に応じた科目（特論及び演習）を開設している。またさらに教員免許状の特性を高めるため専門性の高い実践的指導力の育成を目的として、児童生徒の心理検査に特別演習、児童生徒の特性に合わせた教育指導法を学ぶ特別演習科目を展開している。</p> <p>【優れた取組】</p> <p>今日的な教育課題に対応するため、例えば、「特別支援教育特論」「臨床心理学特論」「心理検査特別演習Ⅰ・Ⅱ」では、具体的な問題に対する指導の在り方を探り、心理検査では知的発達や学習能力に関するアセスメントができる資質・能力を育成している。また専門的・実践的な指導力を身に付けた学校心理士の養成に向けた科目を設定している。</p> <p>【改善の方向性・課題】</p> <p>上記の演習系科目は、短期の集中講義形式で授業運営を行う場合が多い。こうした授業運営に教育効果の面で課題がないかどうか、受講生の要望等を把握しつつ検討を行いたい。</p> <p>〈根拠となる資料・データ等〉</p> <p>○生涯学習学研究科シラバス</p>						

基準項目 3-2-②

様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E○	F
-----------	---	---	---	---	----	---

【現状】【優れた取組】

「中学校教諭専修免許状（美術、音楽）」「高等学校教諭専修免許状（美術、音楽）」の教職課程科目として配置している「生涯学習行政論特別演習」では、シラバスにも明記しつつ複数の教育施設等での体験や見学を実施し、討議形式でその振り返りを授業内で行っている。また、「保育原理特論」でも保育現場での体験学習をシラバスに明記している。また、教育現場でのボランティア活動については、適宜、修士論文指導の中で行われることがある。

なお、希望する院生には、学部学生の授業運営の支援を行う TT（チームティーチング）を担ってもらい、実践的指導力を身に着ける場を提供している。

【改善の方向性・課題】

TT（チームティーチング）は、全ての院生が行っていることではないが、その教育効果について、必要に応じて振り返りの機会を設けたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

○生涯学習学研究所シラバス

基準項目 3-2-③

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

取組観点との関係性	A	B	C	D	E○	F○
-----------	---	---	---	---	----	----

【現状】

教育実践の最新の事情については、各科目の中で適宜、トピックスとして情報提供がなされている。

【優れた取組】

様々な学会及び研究団体などが開催する研修会やシンポジウム等への参加を呼び掛け、参加する院生も多い。特に学校心理士会の研修会には毎年参加している。また、「教育指導特論」では教育行政や児童福祉関係の専門家をゲストティーチャーとして迎え、最新の事情を提供いただき学びを深めている。

【改善の方向性・課題】

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新事情の教職課程履修院生への情報提供が適度になされるよう、必要に応じて科目担当教員間での情報共有を行いたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 3-2-④

大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協定体制の構築を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D	E	F
-----------	----	---	---	---	---	---

【現状】

(研究科として特記なし)

本学としての取組となるが、「北海道教育委員会」「札幌市教育委員会」による教員採用検査説明会が毎年度行なわれている。更に、各教育委員会の教職員担当者が本学を訪れ、本学の教職課程教育の充実さへの謝辞を述べつつ、教員採用へのさらに積極的なかわりをしてほしいとの依頼をされていく。その際は、教員採用の現状と退職者数の関わり、期待する教師像教師像についての情報提供をいただいている。

【優れた取組】

毎年度、優れた学生を輩出しているとの認識で本学の教職課程教育をとらえてくださっていることが、学生への指導の方針が正しいものであるとの認識の裏付けとなり、指導に対する更なる工夫への弾みとなっている。

【改善の方向性・課題】

教育委員会教職員担当者との情報交流の機会をさらに充実させていく。

〈根拠となる資料・データ等〉

特になし

基準項目 3-2-⑤

教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

取組観点との関係性	A○	B	C	D	E	F○
-----------	----	---	---	---	---	----

【現状】

(研究科として特記なし)

【優れた取組】

【改善の方向性・課題】

今後フィールドワークを中心とした実習をすすめるため教職センターとの連携を検討したい。

項目記載内容の出典や根拠

【大学院 生涯学習学研究科】

○大学ホームページ「生涯学習学研究科」

<https://www.hokusho-u.ac.jp/school/graduateschool/lifelong/masters/index.html>

○生涯学習学研究科案内パンフレット（令和4年度版）

https://www.hokusho-u.ac.jp/school/graduateschool/lifelong/files/pamphlet_2020.pdf

○大学ホームページ／情報の公表（教職課程）／（生涯学習学研究科）

<https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopub-teach.html>

○大学院学生便覧 <https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/gradschool/>

II 生涯学習学研究科の教育目標と特色

V 生涯学習学研究科 <修士課程>

1. 北翔大学大学院学則
2. 北翔大学大学院 長期履修規程
3. 北翔大学大学院 教職課程履修規程

○生涯学習学研究科シラバス

<https://portal3.hokusho-u.ac.jp/campusweb/slbssrch.do>